

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	230人	社会	231人	数学	233人
	理科	233人	英語	234人		

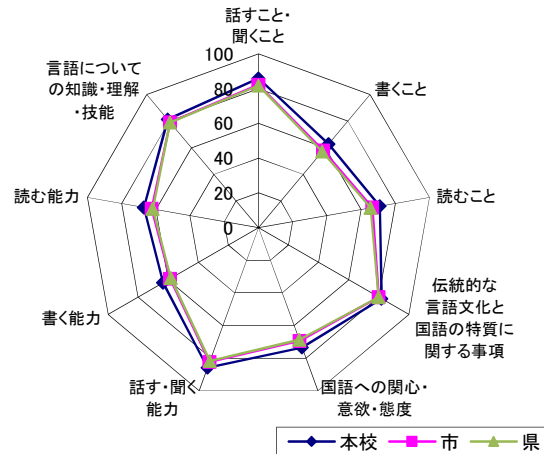
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.9	82.3	81.8
	書くこと	62.7	58.0	57.2
	読むこと	71.0	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.9	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	73.5	69.4	68.8
	話す・聞く能力	85.9	82.3	81.8
	書く能力	63.4	58.8	58.1
	読む能力	67.0	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	81.3	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

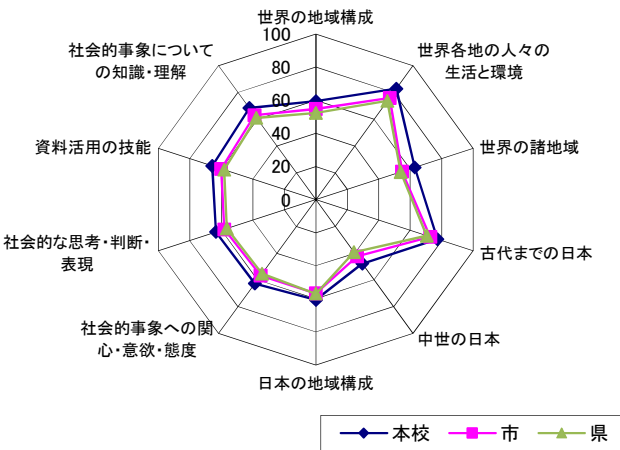
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は、市平均を3.6ポイント、県平均を4.1ポイント上回っている。司会者の工夫点を認識することができる。 ●「相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる」力が低い。聞き取る能力はあるが、内容と自分の思いや意見、考えを比較したりまとめたりといった、言葉に表現することになると正答率が下がる。	・授業での話し合い活動の中で、相手の話を聞いて内容を理解する力がついてきているため、今後は、相手の意見を自分の意見に取り入れたり、相手の意見と自分の意見を比較したりし、さらに意見を文章で表現する活動を取り入れていきたい。また、自分の意見を表現する語彙力が乏しいために文章が記述できないと推測されるため、語彙力を高める指導に努めたい。
書くこと	○正答率は、市平均を4.7ポイント、県平均を5.5ポイント上回っている。 ●「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く」設問では、市平均・県平均と同等の正答率ではあるが、低い。「話すこと・聞くこと」の課題とも共通して言えることで、自分の考えを文章として表現する力が弱い。	・自分の考えが当てはまるような語彙が身に付いていないかたり不十分だったりすることが考えられる。教材を使って語彙の知識を得たり、辞書を使って語彙力を高める学習を行ったりしていく必要がある。 ・書く力を高めるために、記述の活動を多く取り組むような授業展開・授業研究をしていくよう努めたい。
読むこと	○正答率は市平均4.4ポイント、県平均を5.4ポイント上回っている。特に、「文章の構成や展開を捉える」設問では、県平均を9.3ポイント上回っている。 ●「登場人物の心情の変化を捉える」設問では、正答率が県平均を1.2ポイント下回っている。「読むこと」の領域は全体的にできるものの、普段の学習の状況からも、登場人物の心情を捉えることを苦手としている生徒が多い。	・物語や小説を教材で扱うときは、丁寧に登場人物の分析や心情変化を読み取っていく。そのために、表やグラフを使って視覚的に変化が明確化するような工夫を取り入れていきたい。また、登場人物の心情に寄り添った考え方ができない傾向があるため、相手や自分以外の人間に対し肯定的に受け入れたり認めたりするような気持ちをもたせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は、市平均を1.9ポイント、県平均を2.0ポイント上回っている。 ●「小学校で学習した漢字を書く」設問では、正答率が市平均3.5ポイント、県平均を8.0ポイント下回っている漢字があった。その他の漢字の書きや読みからも、小学校までで学習する漢字が身に付いていないことが分かる。また、漢字を反復練習する習慣化がされていない。	・新しく習う漢字の学習だけにとどまらず、既出の漢字についても小テスト等を行い定着を図る。また、小テスト等を実施する前に、間違いやすい漢字や読みにくい書きにくい漢字の指導をしたり、実施後に間違いが多かった漢字の読み書きの指導をしたり、全体的に間違いが多い漢字について説明や解説をするように努めていきたい。 ・漢字の反復練習を習慣化させたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	59.5	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	82.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	62.9	54.8	53.9
	古代までの日本	77.3	72.7	70.5
	中世の日本	47.9	42.4	39.3
	日本の地域構成	60.6	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	62.7	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	63.4	58.1	56.4
	資料活用技能	65.8	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	68.3	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

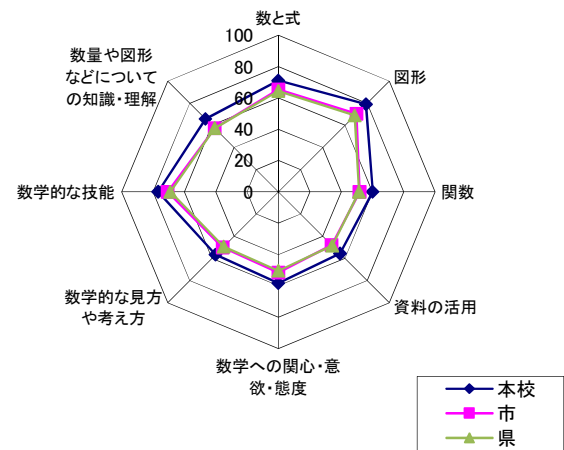
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○正答率は県平均を7.2ポイント、市平均を2.4ポイント上回っている。特に、「モルワイデ図法の特徴を読み取る」設問では県平均を17ポイント上回っている。 ●正答率の県平均と校内平均を比較すると、本校は「正距方位図法の選択」を問う設問では2.6ポイント下回っており、適切な地図の選択や方位を答える短答式の問題における正答率が低い。	・教科書や資料集、ICT教材を使用し、様々な世界地図の読み取り方を身につけさせる。 ・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。
世界各地の人々の生活と環境	○正答率は県平均を9.1ポイント、市平均を6.9ポイント上回っている。特に、「冷帯気候の人々のくらし」の設問では県平均を12.1ポイント上回っている。 ●正答率の県平均と校内平均を比較すると、この領域は全体的によくできている。しかし、「乾燥地域における理解について」の設問では、正答率が下がる。	・教科書や資料集、ICT教材を使用し、世界の様子を視覚的に捉えさせるなど工夫して資料を読み取る力を身につけさせる。 ・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。
世界の諸地域	○正答率は県平均を9.0ポイント、市平均を8.1ポイント上回っている。特に、「オーストラリアの貿易相手国の変化について」の設問では県平均を16.1ポイント上回っている。 ●正答率の県平均と校内平均を比較すると、この領域も全体的によくできている。しかし、「モノカルチャー経済の国が抱える課題について、資料をもとに考察し、表現する」設問は、正答率が下がる。	・授業において、複数の資料を比較する学習や資料から読み取れることを説明する学習を重点的に行う。その際、説明する力を身につけられるよう説明する手順や言葉の使い方などを段階的に指導していく。
古代までの日本	○正答率は県平均を6.8ポイント、市平均を4.6ポイント上回っている。特に、「世紀の表し方」の設問では県平均を9.0ポイント上回っている。 ●正答率の県平均と校内平均を比較すると、「竪穴住居についての理解」の設問で2.8ポイント上回るにとどまっている。	・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。 ・授業において、基礎的・基本的な事項に関する小テストを実施するなど繰り返し学習を行い用語の定着を図る。
中世の日本	○正答率は県平均を8.6ポイント、市平均を5.5ポイント上回っている。特に、「鎌倉幕府の執権政治」の設問では県平均を15.2ポイント上回っている。 ●正答率の県平均と校内平均を比較すると、「御恩と奉公について、資料をもとに把握する」設問で1.9ポイント上回るにとどまっている。	・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。 ・授業において、基礎的・基本的な事項に関する小テストを実施するなど繰り返し学習を行い用語の定着を図る。
日本の地域構成	○正答率は、県平均を3.7ポイント、市平均を3.9ポイント上回っている。特に「排他的経済水域の面積と国土面積から読み取れる特徴について複数の資料をもとに判断する」設問では、県平均を9.3%上回っている。 ●「排他的経済水域の理解」の設問では、県平均を1.7ポイント下回っており、知識の定着が不十分であることがわかる。	・教科書や資料集、ICT教材を使用し、日本の地域構成を視覚的に捉えさせるなど工夫して資料を読み取る力を身につけさせる。 ・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	71.1	65.4	64.4
	図形	79.0	70.5	69.0
	関数	60.2	51.9	51.5
	資料の活用	55.7	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	58.3	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	56.7	50.2	49.4
	数学的な技能	76.7	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.8	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

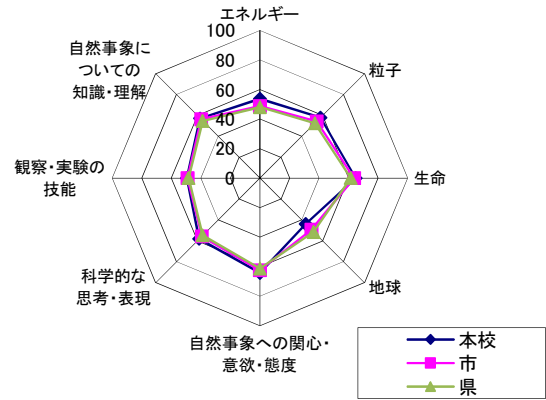
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ 正答率は、市平均を5.6ポイント、県平均を6.6ポイント上回っている。 ● 各設問においては、県平均を上回って入るものの、基礎的な計算ミスが多い。予想される誤答以外にも多くの誤答があるため、生徒によって様々なつまずきがあると考えられる。	・基礎的な計算の問題においても机間指導を欠かさずに行うなど、つまずきを見つけられるようにする。 ・計算問題の答え合わせの際に、デジタル教科書を用いるだけでなく、板書で1行ごとに途中計算を書きながら解説を行うことで、手順を整理して解説していくようにする。
図形	○ 正答率は、市平均を8.5ポイント、県平均を10.0ポイント上回っている。 ● 空間図形の「底面積と高さが等しい円錐と円柱の体積の関係」の設問は、図形の領域の中で最も正答率が低い。また、「回転移動の意味」の設問についても正答率は低い。	・図形を図に表して説明するだけでなく、実物を用いて体験活動的に授業を進めていく必要がある。特に、体積の比較については、水を用いて実際に見せていく。 ・言葉の定義については、文字でまとめるだけでなく、何が重要なのかを生徒自身に考えさせたい。回転移動については「回転の中心、角度、回転の向き」に注視させるような授業展開をしていきたい。
関数	○ 正答率は、市平均を8.3ポイント、県平均を8.7ポイント上回っている。 ● 「関数について理解している」の設問はこの領域において最も低く、32.2ポイント。また、「比例・反比例でxの値が変化するとき、yの値がどのように変化するか」の設問についても、正答率が低い。	・図形領域と同様に、言葉の定義については、何が重要か考えさせたい。「この問題は関数かどうか」ということについて、話し合い活動を通して、理由を含めて説明する活動が必要である。 ・関数領域においては表や式、グラフを関連付けて指導していくように努める。
資料の活用	○ 正答率は、市平均を7.6ポイント、県平均を7.1ポイント上回っている。 ● 「資料の散らばりと代表値」の設問では、無回答が21.9ポイントと高かった。また、「累積度数について」の設問では、校内正答率が、県平均を0.5ポイント下回った。	・資料の活用においては、比較検討する活動が必要である。2つのデータを提示し、それぞれのデータの特徴を考え、目的に応じてどちらが効率的かということをグループ活動を通して話し合わせていきたい。 ・1つの資料を基に問題演習を行いながら、階級値、ヒストグラム、相対度数、累積相対度数、最頻値、中央値、平均値、範囲などの基本用語の意味と使い方を身につけさせる。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.7	48.8	48.1
	粒子	57.9	54.4	52.6
	生命	64.8	63.7	61.5
	地球	43.8	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.1	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	58.1	55.7	54.8
	観察・実験の技能	49.5	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	57.3	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

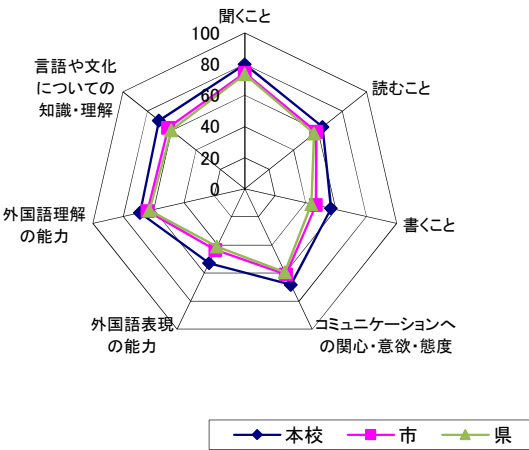
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は、市平均を4.9ポイント、県平均を5.6ポイント上回っている。特に「つり合っている2つの力の関係」に関する正答率は、県平均より16.1ポイント上回っている。 ●「おもりにはたらく重力とばねののびの関係をグラフに表す」正答率が、10.7%で県平均より13.3ポイント下回っている。	・多くの生徒は観察・実験に意欲的に取り組んでいる。目的とそのために必要となる条件について意識させながら実験に取り組ませたり、課題解決のためにどのような実験を行えばよいのかを考えさせる機会を多くつくったりすることで興味・関心をより高める。 ・力の大きさをばねののびの関係を、比の関係を使って計算で求めグラフ化することを苦手とする生徒が多い結果になった。練習問題を繰り返し解き、グラフの書き方の定着を図る。
粒子	○正答率は、市平均を3.5ポイント、県平均を5.3ポイント上回っている。特に「水素の気体発生方法」に関する正答率は、県平均より11.8ポイント上回っている。 ●「溶解度のグラフの読み取り」で、県平均は上回っているものの、正答率が39.5%と低い。	・実験を通して実験器具の操作方法、注意事項を正しく習得させる。 ・物質は粒子でできているという粒子概念を持たせられるよう、具体例を映像や資料で視覚的に伝えるなど、印象に残り定着するような工夫をする。 ・溶解度曲線のグラフの見方や活用の仕方を身につけさせ、再結晶の析出量の計算は最終的には減法である点を強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。
生命	○正答率は、市平均を1.1ポイント、県平均を3.3ポイント上回っている。特に「軟体動物」に関する正答率は、県平均より12.7ポイント上回っている。 ●「アイビーの根のつくりを推測し、図示する」正答率で、県平均より5.7ポイント低い。	・重要語句や基礎・基本的な内容などの既習事項から考えを深める活動を多く取り入れる。 ・観察・実験結果を踏まえて何ができるかということを、実際の実験・観察後の考察や振り返りで記述、図示させ、考えさせる場面を意図的に増やし、応用力や思考力の向上を図る。
地球	○「地層の特徴と当時の海岸からの距離」に関する正答率は、県平均より1.7ポイント上回っている。 ●正答率は、市平均を5.6ポイント、県平均を7.6ポイント下回っている。	・岩石のでき方やつくりに関する知識が不十分で、火成岩と堆積岩の違いを整理できずにいる生徒が多いと考えられる。混同しやすいポイントを実物の岩石を用いて丁寧に指導したり、岩石のでき方を映像や資料で紹介したりすることで、より理解が深まるように工夫していく。 ・近年の火山活動や地震に触れたり、地元の大谷石などの身近な話題に触れ、興味・関心を高める。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	79.9	74.4	73.5
	読むこと	63.8	58.7	56.9
	書くこと	56.8	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	68.4	61.0	59.4
	外国語表現の能力	53.0	43.5	41.1
	外国語理解の能力	69.0	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	70.4	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は県平均を6.4ポイント、市平均を5.5ポイント上回っている。特に「英文の要点を聞き取る。」に関する設問の正答率は県平均を大きく上回っている。 ●「英文の概要を聞き取る。」の正答率が県平均と同レベル程度である。	・簡単な英語や短文であれば、内容を理解することができるが、対話文や長い英文の聞き取りになると、理解できない生徒もいる。授業で、会話のやりとりを続けられるようにしたり、ある一定の英文を聞いて、どのようなことを言っているかを大まかな内容を理解したりする活動をしていきたい。 ・英文の使用場面をイメージさせたり、ピクチャーカードやデジタル教科書の視覚教材を用いて内容についての問答をしたりして、理解する能力の向上に努めたい。また、単元末に行うリスニングテストを活用し、聞き取りの定着を確認していきたい。
読むこと	○正答率は県平均を6.9ポイント、市平均を5.1ポイント上回っている。特に「読み取った内容を踏まえて、英文を完成させることができる。」に関する設問の正答率が高い。 ●「英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。」の正答率が県平均と同じレベル程度である。	・教科書の音読を繰り返す行うことで、内容理解をしながらか読む活動をしていきたい。文の中で出てくる代名詞は何を指しているかを考えながら読むことで内容理解を深めさせたい。 ・長文の問題は、数多く読むことが大切なため、さまざまなジャンルの英文をたくさん読む活動を取り入れるとともに和訳ではない内容理解の方法、例えばQ&Aなどを使って理解を深めさせたい。また、ワークやプリントを使って長文の読み取り問題を多く解く等、練習量を増やしていきたい。
書くこと	○正答率は県平均を12.9ポイント、市平均を10ポイント上回っている。 ○「単語の並べ替えによる英作文」「場面に応じて書く英作文」「情報に応じて書く英作文」の正答率は軒並み高い。 ●「3文以上の英作文」に関しては、県平均を上回っているものの、自分の出身地についてのより深い知識を、英作文につなげていけるとよい。	・文法や語順の理解の定着を図るために、熟語や基本文を覚えたり、基本文を使って、自分のことを英文で表現する練習を今後も継続させていきたい。 ・単元のまとめとして、あるテーマに沿った英作文を、論理的に書けるよう練習したり、習った単語や文法を使って適切に英文で表現したりできるよう支援していきたい。 ・英作文を書く力については個人差が大きいので、個別に指導をしていく必要がある。TTの時間を有効に活用し、ALTIに助言してもらったり、辞書の使用を促したりしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校の肯定的回答割合が9割を大きく上回っている項目は、
 「家で、学校の宿題をしている」
 「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」
 「学校の宿題は、自分のためになっている」
 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」
 「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」
 「授業の中で目標が示されている」
 「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている。」
 「授業を集中して受けている」「友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」
 「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」
 「毎日、朝食を食べている」
 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」
 「自分がもっている能力を十分に発揮したい」
 「自分は家族の大切な一員だと思う」であった。
 ○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は県平均より20.8ポイント、市平均より19.3ポイント上回っており、学習内容の定着と家庭学習で学習をより深めていく意欲が見られる。
 ○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」は県平均より15.9ポイント、市平均より13.6ポイント上回っている。タブレットPCを用いた学習に慣れてきて、自ら調べる態度があり、調べることもできる。
 ○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」は、県平均14.4ポイント、市平均より12.5ポイント上回っている。勉強に関することのみタブレットPCを使用することを心得ていて、ルールを守って使用しようとしている。
 ●「家で勉強するときに、だいたい同じ時間に取り組むようにしている」は県平均より9ポイント、市平均より6.3ポイント下回っている。また「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」県平均より5.7ポイント、市平均より4.8ポイント下回っている。規則正しい生活を送り、健康管理の大切さを指導していきたい。
 ●「家の人と学校のでできごとについて話をしている」県平均より5ポイント、市平均6.2ポイント下回っている。今後も学校だよりや学年通信を通して学校の情報を発信していくようにする。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	①主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 ②タブレット端末を活用した個別最適化された学びの実現 ③生徒自らが学びに向かう学習評価の在り方	①質問25「グループ活動への参加」、質問26「発表の機会」、質問27「友達との話し合い活動」では市の平均を3p以上上回っている。また、質問32の「話し合う活動で自分の考えを深めているか」では、市の平均が47.9pであるのに対し、53.2pと大きく上回っている。このことから生徒たちが主体的に対話活動を行っていることが分かる。 ②質問19の「本やインターネットで勉強に関する情報を得ている」では市の平均が39.4pであるのに対し51.9pと大きく上回っている。このことから生徒が学習において頻繁にインターネットを活用していることがわかる。 ③質問29の「授業の振り返り活動」では、市の平均が43.3pであるのに対し、62.6と大きく上回っている。このことから日頃の授業の中で自己評価活動を頻繁に行っていることがわかる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問35「人前で発表することは得意」では、市の平均を下回っている。このことから生徒の発信能力を高めていくことが求められる。	①コロナ禍の中での対話活動のさらなる充実 ②教師、生徒のタブレット活用能力の向上 ③学習評価の在り方の研究	①感染防止対策を徹底した上で、どう対話活動を充実させていくか校内研修、教科部会で検討する。 ②日常的にタブレット端末を使うことにより操作の技術を向上させるとともに、校内研修等において効果的な活用方法について実践事例を共有する等、研究を重ねる。 ③生徒自らが粘り強く学習に取り組める課題の出し方や自分自身が計画したり振り返ったりできるような学習評価の在り方を教科部会、校内研修を通して研究を重ねる。